

欧州旅行を計画されている方々へ

夏頃より日本から欧州への出張者・旅行者の数が爆発的に増え、それに伴って渡航先で罹患する日本人短期滞在者の数も多くなっています。

ヨーロッパでは全体的に規制が緩和されてきていますが、だからと言ってコロナ感染がなくなった訳では決してありません。ヨーロッパに来て現地の人と同じ緩さで行動したら、ひとたまりもなく感染してしまったというケースもままあります。初期の頃のような重症化の割合は少なくなったとはいえゼロではなく、異国の地で独りで未経験の症状と向き合うのは、何とも心細いものです。

そして規制緩和されたと言っても、一定の隔離期間が設けられている国も未だあり、その場合はホテルの自室に缶詰になり、違反すると非常に高額の罰金が科せられる事もあります。隔離期間中は日常生活品を買いに出る事すら許されていませんので、ルームサービスやデリバリーで凌ぐ事となります。隔離期間と被れば、旅行の予定も変更しなければなりません。

また、ヨーロッパで英語が通じるのは一部で、医療機関でも基本的には滞在国の言語が必要となります。隔離期間などの規則も随時変わるため、翻訳された情報が追いついていない場合もあります。

従って、大変な目に遭い、予想外の出費が嵩む場合もある事を、よく承知のうえで渡航を検討して下さい。渡航する場合は、ヨーロッパの開放的な雰囲気にも吞まれず、マスクや手洗いなどの予防策を怠らないで下さい。また、基礎疾患の常用薬がある方は、旅行期間が予想外に延びる事も視野に入れ、薬を何週間分か余分に持参する事をお勧めします。

2022年9月21日

欧州日本人医師会